

# 令和6年度宮崎市子ども・子育て会議 第4回全体会 議事要旨

令和7年1月30日（木）10:00～11:15

宮崎市民プラザ ギャラリー1

## 1. 議事

### (1) (仮称)宮崎市こども計画の素案について

#### ① (仮称)宮崎市こども計画の概要について

【事務局説明】資料1 (仮称)宮崎市こども計画策定に向けたこれまでの対応状況

資料2 (仮称)宮崎市こども計画素案 (P.1～27)

【委員意見・質問】 意見・質疑なし

#### ②「第4章 推進施策」について(計画推進部会)

【事務局説明】資料2 (仮称)宮崎市こども計画素案 (P.28～58)

【部会長補足】

(安達部会長)部会が担う推進施策は多岐に渡っていたため、第3回全体会で、部会で協議した内容に関して改めて全体会の知恵をいただきたいとお願いしたうえで、部会を進めてきた。

各推進施策の最後に記載している「推進施策の目標値」だが、施策の内容は多岐に渡っているのに、この内容で推進施策を評価できるのかと疑問に思う人もいると思う。部会でも、「項目が不足しているのではないか。既に100%に近い実績がある」という話にも及んだが、施策を適切に評価するために何の指標にするのかを細かく見ていくことまでは、時間的にも、委員の専門性的にも難しかった状況はある。

そこで、部会として今後も前向きな議論をしていくために、「推進施策の目標値だけで判断するのではなく、総合的に評価していく」という文言を第1章で伝えてほしいと伝え、「評価と公表」の中で記載する流れとなった。

部会では、点検・評価を実際どのように進めていくのかという点まで議論が及び、現在の内容に固まったが、委員の皆様から意見をいただき、より良い計画にしていければと考えている。

【委員意見・質問】

(佐山会長)安達部会長からの補足説明にあったように、計画推進部会では、推進施策の目標値に関して多くの時間論議した。目標値の中には、下がっていくものもあるため、注釈を記載することで、見た人に伝わるようにしたところ。

(片山委員)P.48「推進施策の目標値」の「安心できる場所が一つ以上あると思う中高生の割合」に関して、①どのように調査するのか。②令和11年度目標では2.5%が安心できる場所がないことになるが、人数はどの程度なのか。③「安心できる場所」はどこを指すのか。

④P.56「推進施策の目標値」の「宮崎市は子育てしやすいまちであると思う人の割合」と「子育ての相談機能の充実と子育てしやすい環境に満足している人の割合」が低いと感じる。「子育ての相談機能の充実と子育てしやすい環境に満足している人の割合」の令和6年度(見込み)42.8%を立てるうえで、参考にした指標があれば教えてほしい。

(子育て支援課) ①アンケートの調査方法は、今年度のティーンズ会議で「子どもの権利」に関して市内の中学校・高校へアンケート調査を実施し、その設問の1つとして設けた。

②令和6年度の総対象者23,000～24,000人に対して、回答者数約500名の割合となっている。

③安心できる場所として、自宅や祖父母宅、学校、SNS等を選択肢にしているため、割合は高くなっている。

来年度以降もアンケート調査を継続していく予定であるため、多くの人に回答してもらえよう、アンケートの実施方法を検討していきたい。

④「子育ての相談機能の充実と子育てしやすい環境に満足している人の割合」は、年に一回、市全体で意識調査を実施しており、その中に設問を設けている。令和6年度(見込み)の数値は、令和5年度調査実績を踏まえて設定しているが、アンケートの対象者が、子育て世帯に限定したものではないため、割合が低くなっている部分もあると考えている。

【議事の承認】 承認された。

### ③「第5章 子ども・子育て支援事業計画」の「子ども・子育て支援給付」について

(教育・保育推進部会)

【事務局説明】資料2(仮称)宮崎市こども計画素案(P.60～75)

【部会長補足】※部会長代理

(高妻委員)部会では、保育所や幼稚園に通っていない子どもの割合や、教育・保育の「需要と供給」のバランスに関する質問や意見があった。それに対し、事務局からは、令和6年3月に実施した市民意識調査で、保育所や幼稚園を利用していないと回答した約1割のうち、大半は両親や祖父母が見ているという結果であったことや、定員に空きが出ている施設であっても、現在の定員を今後も維持しなければならないというのではなく、入所児童の実績に応じて適切な定員に変更できることの回答があった。この点は、現場として非常に重要な内容であると考えている。

また、昨年、こども家庭庁が、R6.4.1時点の全国の待機児童数が約2,500人に減少したことを公表し、過去最少になったとの報道もあったため、少子化が進んでいることが明確になったと感じている。

こども計画においても、子どもの減少傾向が見込まれている中、教育・保育の「需要と供給」のバランスを引き続き注視していく必要があると考えている。

【委員意見・質問】 意見・質疑なし

【議事の承認】 承認された。

#### ④「第5章 子ども・子育て支援事業計画」の「地域子ども・子育て支援事業計画」について

(子育て支援推進部会)

【事務局説明】資料2 (仮称) 宮崎市こども計画素案 (P.77~107)

【部会長補足】

(片野坂部会長) 各事業の需給計画に記載している「事業量の見込み」は、事務局が人口推計やこれまでの事業実績等を踏まえて算出しているものであることから、見込み量に関して部会で質疑が出ることはなかった。

また、人口推計が減少傾向であることから、目標値も減少傾向になってしまう事業が多数あることは仕方がないと思っている。

ただし、人口推計だけでなく事業の伸び率も考慮して見込み量を算出しているということなので、事業を利用したいと考えている人が利用できるよう、関係機関と横の連携を十分に図りながら、これまで以上に事業の周知や推進方法を検討してほしい。

また、新規事業も追加されているため、円滑な事業推進をお願いしたい。

【委員意見・質問】

(佐山会長) P.105「14 産後ケア事業」は、事業量の見込みが令和6年度と比較して急増するものとなっているが、宮崎県助産師会の体制は整っているのか。

(子ども家庭支援課) 令和6年10月頃に国から「利用を望む人が利用できるように事業を展開すること」という方針が示された。

産後ケア事業として馴染みがある「ショートステイ型」だけでなく、「アウトリーチ型」や「デイサービス型」という手法もあるため、市としても多くの人に利用してほしいと考えている。なお、ショートステイ型は、実施可能な助産所が限定的であるため、医療機関でも実施できないか協議を進めているところ。

アウトリーチ型は、宮崎県助産師会が現在の約20名の助産師で既に実施している事業があるため、内容を変更することで対応可能との回答を得ている。

よって、事業量の見込みが急増していることに関しては、事業の組み立てを変更すると理解してほしい。

【議事の承認】 承認された。

#### 議事 (2) 今後のスケジュールについて

【事務局説明】資料3 今後のスケジュール (予定)

【委員意見・質問】 意見・質問なし

【今後の流れ】

(佐山会長) 事務局から、3月中下旬で日程調整している「子ども・子育て会議 全体会」は、年度末である関係で委員の過半数の出席が難しい可能性があるという説明があった。パブリックコメントの状況次第となるが、会長と事務局で協議し、「書面開催」や「会議を開催せずに承認」という連絡をしたいと考えている。

### (3) その他

(佐山会長) 今年度の子ども・子育て会議は、こども計画策定の時期であったため、会議開催回数も多くなり委員に多大な苦勞をお掛けした。

事務局は、委員の意見を真摯に受け止めていただき、こども計画（素案）が出来上がったことを嬉しく思う。

こども計画が進み始める令和7年度以降が大変だと思うが、委員・事務局で「子どもたちのこと」を考えていければと思う。

(子ども未来部長) 今年度は現プランの評価に始まり、こども計画の策定で多くの資料の読み込みや意見をいただき感謝申し上げます。

こども計画を策定する中で、「こどもをまんなかに置き、最善の利益を有することができる施策をいかに作っていくのか」。また、「若者をどのように位置づけていくのか」ということに悩まれたのではないかと思う。

市としては、「子どもが成長していく中で、自分の将来を具体的にイメージしてもらおう。また、若者が子どもを産みたい、結婚したいと希望を持ってもらえる環境を宮崎市で整える」という考えで計画を策定してきた。

こども計画を、希望を持って推進していきたい。

## 2. 閉会

以上